

庭園で待つ

庭園

Gilgamesh × Siduri

で待つ


DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



庭園
で
待つ

Gilgamesh × Siduri



誰一人
残っておらぬ

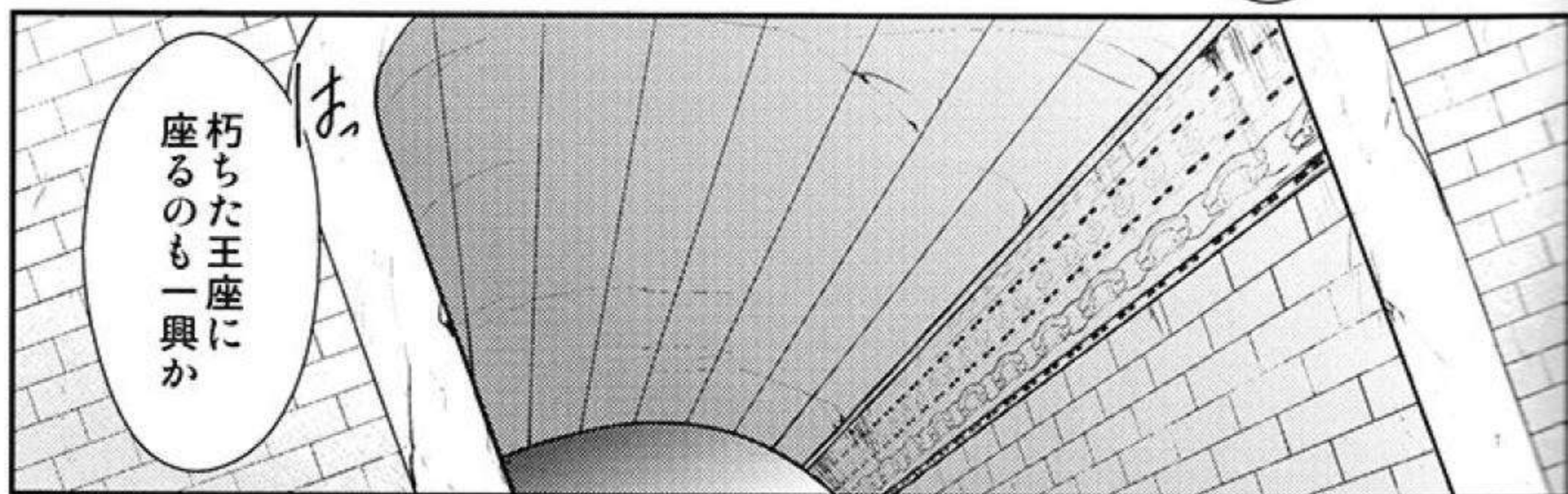
廃墟と化して
おるではないか

民だけでは
都を維持する事すら
ままならぬか



王にすぎり
従うだけか

脆いな



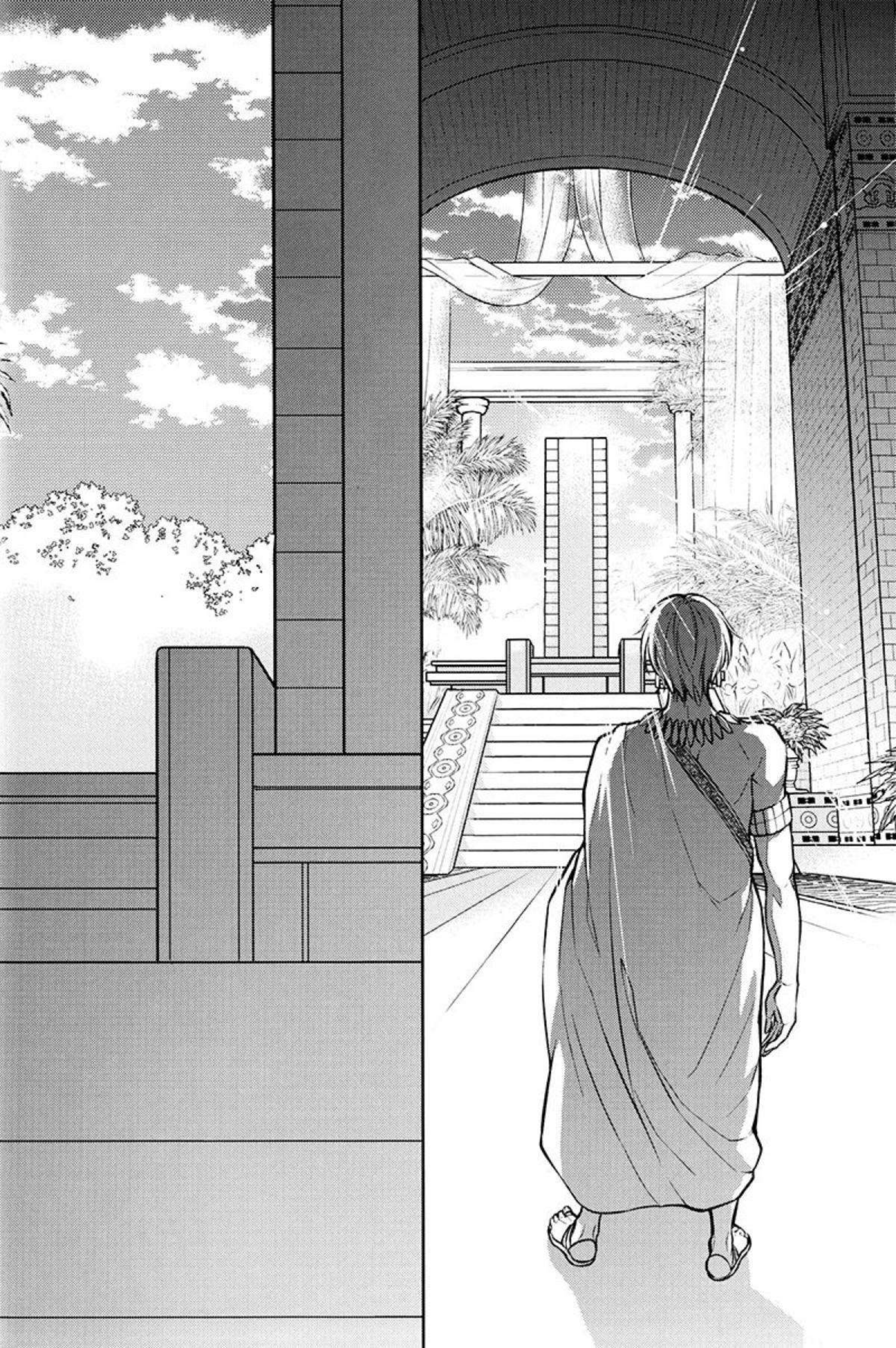
あ
朽ちた王座に
座るのも一興か



奥は掃き
清められておるな

どこぞの凡夫雑種が
不敬にも王の間を
根城にしたか

ん？





唯一無二の友を失った
王は大いに嘆き悲しみ

「死」に動揺した王は
旅に出られた――



いくつもの夜を越えても
王は帰らない

裁く者
裁定者である
王を失った都の治安は
乱れ

整備される事のない
神殿は荒れ果て

一人

また一人と
国を出て行った

私に
「一緒に国を出よう」
そう言ってくれた
方もいた……

けれど私は
迷う事無く
断った

やがて誰も
いなくなり

私は一人になった

あのとき
私も国を出るべき
だったのだろうか

一人では
王宮の手入れも
ままならない

——幼い頃は
父と母のように
伴侶を見つけ子を成し
育てるのが当然だと
思っていたのに

ねえ
父さん母さん
聞いて!!

今日、王が初めて
私の名前を呼んで
下さったのよ!!!

まあ
なんて素晴らしい
光栄な事ね

光栄な事ね

お前は
賢いから

良かったな
シドゥリ

喜んでくれる
両親の顔は
少し寂しげ
だった

父も母も
知っていたのだ

報われる事など
ないと


ああ、
それでも私は




美しく
賢く

全てを見通す
力を持った王に
魅せられてしまった

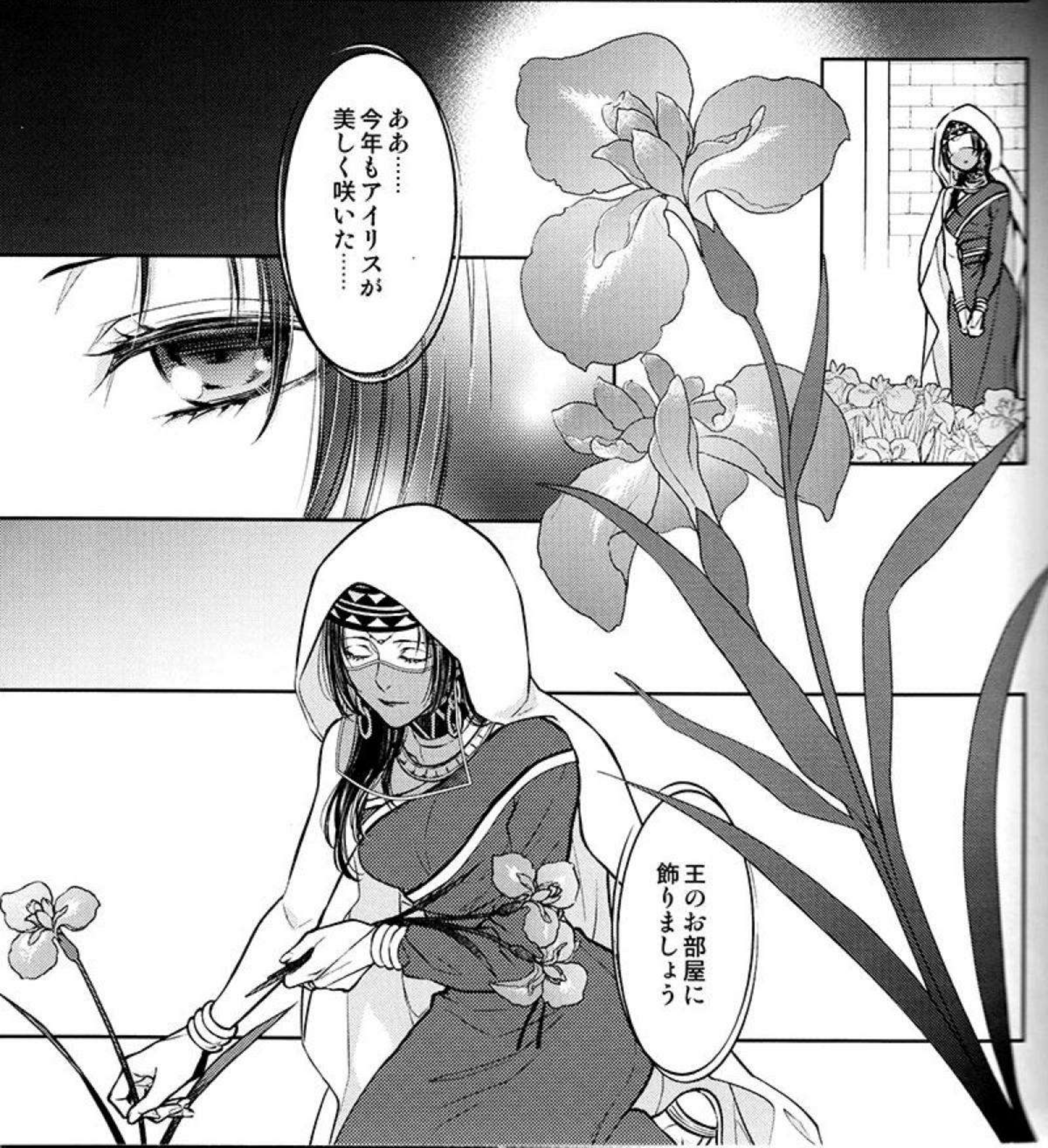




王が作る
国を愛した



ああ……
今年もアイリスが
美しく咲いた……



王のお部屋に
飾りましょう

王は帰らない

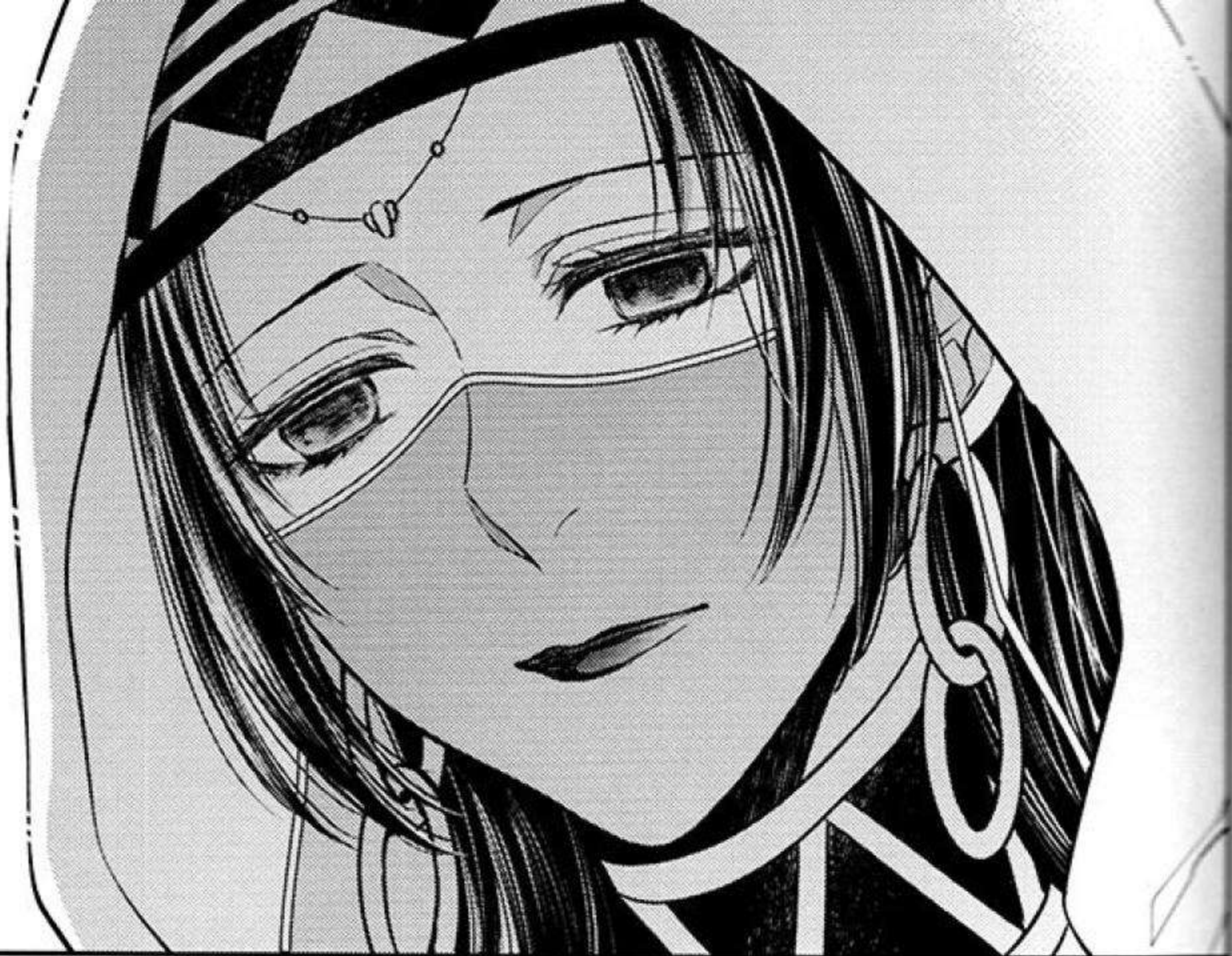


私もこの花のように
ひっそりと朽ちて
いくのだろうか



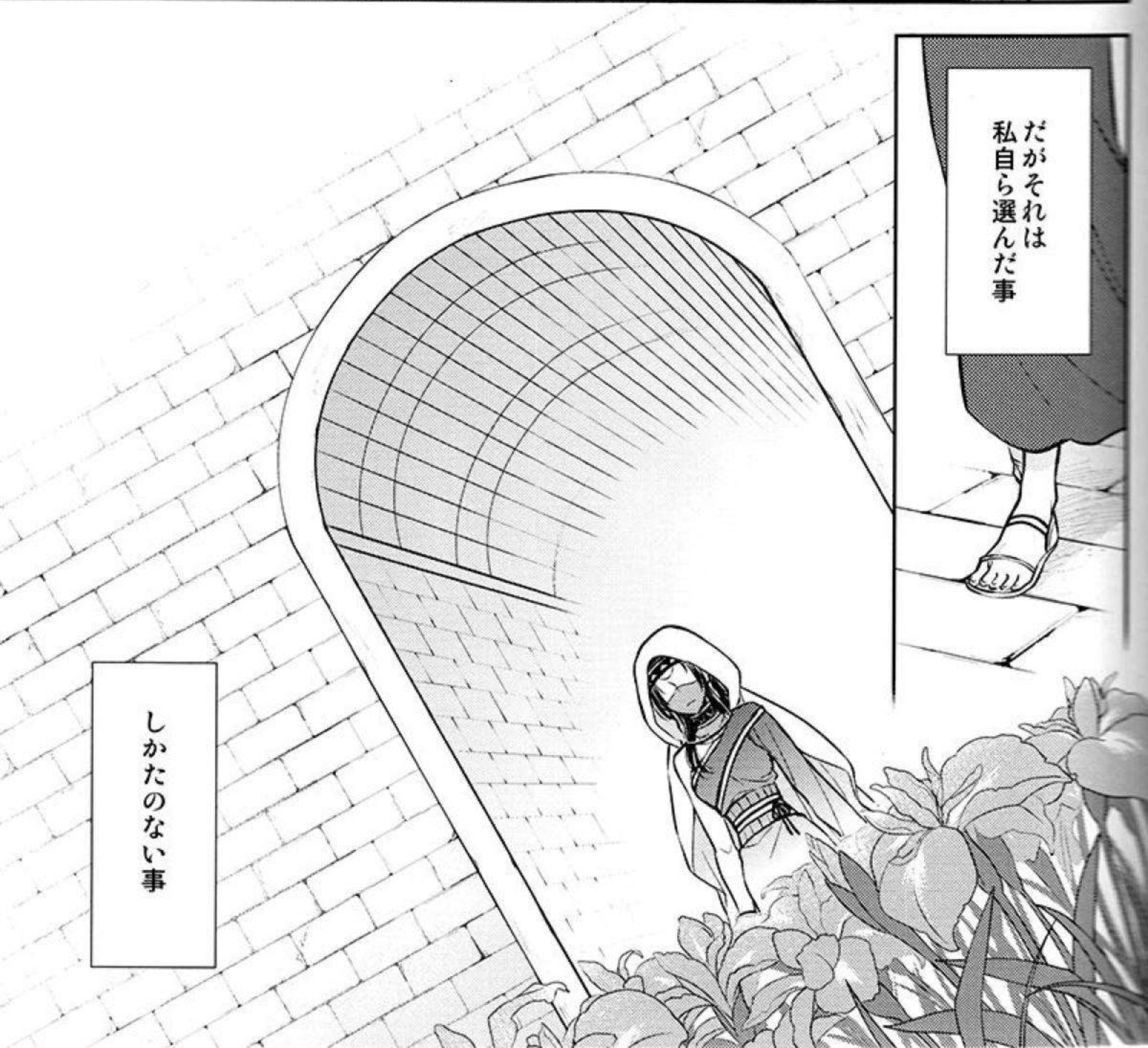
一人大地に
還るのだろうか





だがそれは
私自ら選んだ事

しかたのない事



……もし王が
戻られたら
文句の一つも
申さねば……



かの人の
思い出がつまった
この庭園さえ



王はたやすく
捨ててしまわれた

小さく
可憐な花が
好きだった

あの方も
花が好きだった

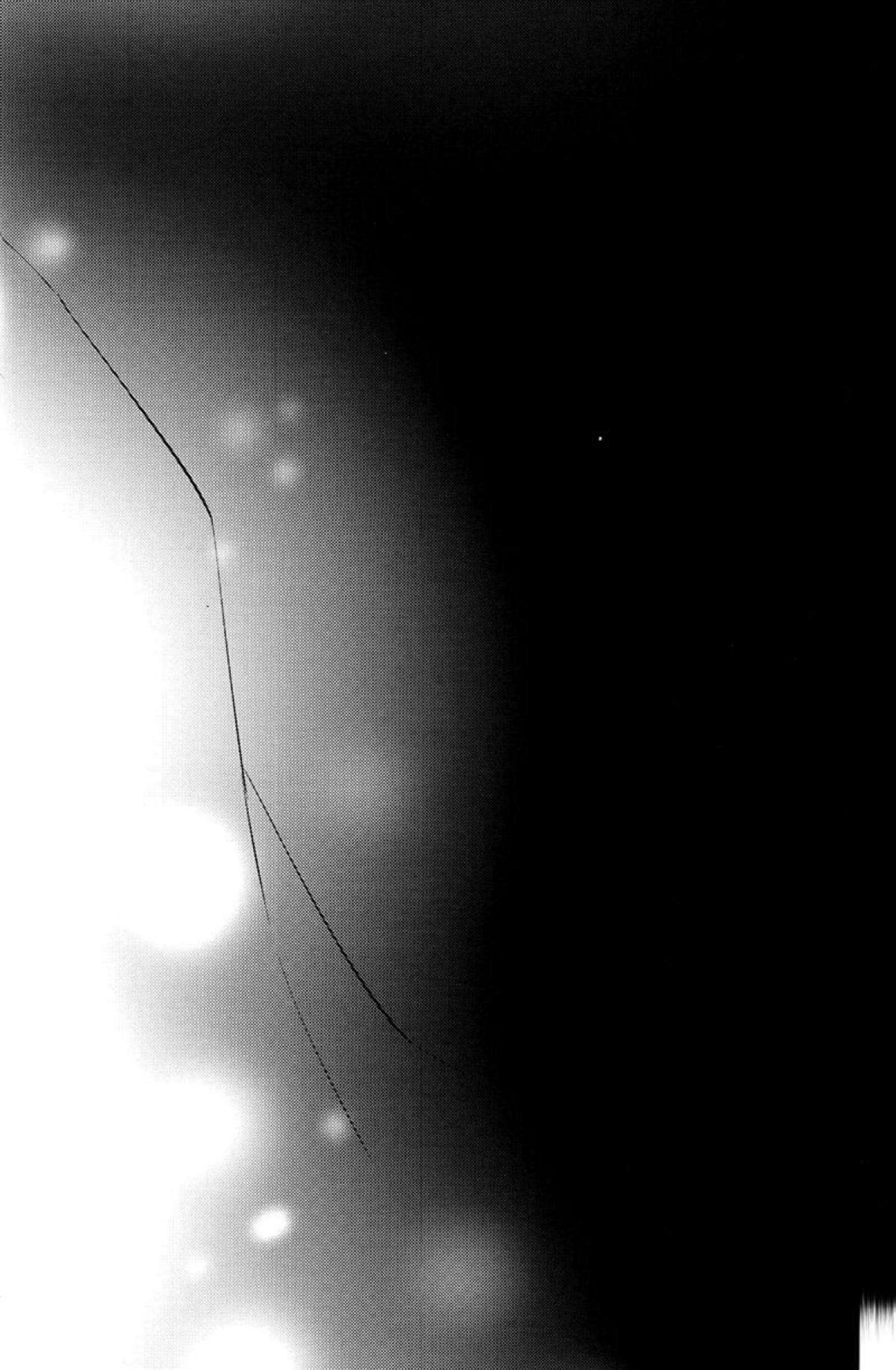
地に咲く姿が
美しいと





私は何年も
何年も

王の部屋に
花を飾った







貴様一人か

一人になってまで
我を待つとは

よほど体が
我を忘れられぬと
みえる



どうした?

我に抱かれないと懇願し
再会の祝いに花を添えよ



私は無責任にも
国を捨てた王に
一言文句を言わねば
気がすまない
思っただけ

それが叶えば
ここで王の手に
かかったとしても
私は本望です

ほう？我に苦言を
申し立てたいだけと
言うか

そうです

進言は許す
だが貴様の繰り言など
聞くに値わぬ

ふ……ふはは
よいぞ
申してみよ
貴様の信念
存分に貫くがいい

しかし
一度きりだ
二度は聞かぬ

ゴッ

王はまるで
変わっていない

姿も言葉も
国を出た
あの時のまま

王は容易く
この国を……全てを
捨ててしまわれた

この国には
王の大切な物は
何一つ無かったのですか？

……それでは
言わせて頂きます

王が居なくなり
国は荒れ果てました

王が敷いた法は
王という裁定者が
居なくては
成立しないもの

王はわかった上で
法律を敷き
国を捨てられたの
ですか？

それが
どうした

……っ
人々が去り
国が滅び

友の墓が
荒れ果てても
かまわないと
思われるのですか

王が教えて
下さったのです

弔う人の居ない者の
冥界での扱いは
酷いものだ——

ろくな食事すら
与えられず
決して安らぎを
得られないと

そうであっても
よいのですか!?

神が作った
人形であるあれは
扱いが違う

他の死者達のように
死霊となり
冥界をさまよう
事はない

墓が荒れようが
荒れまいが
関係ないわ

それでも

私はあの方の……
エルキドゥの墓が
荒れていく様を
見たくはありません!!!

王に喜びを
与えてくれた

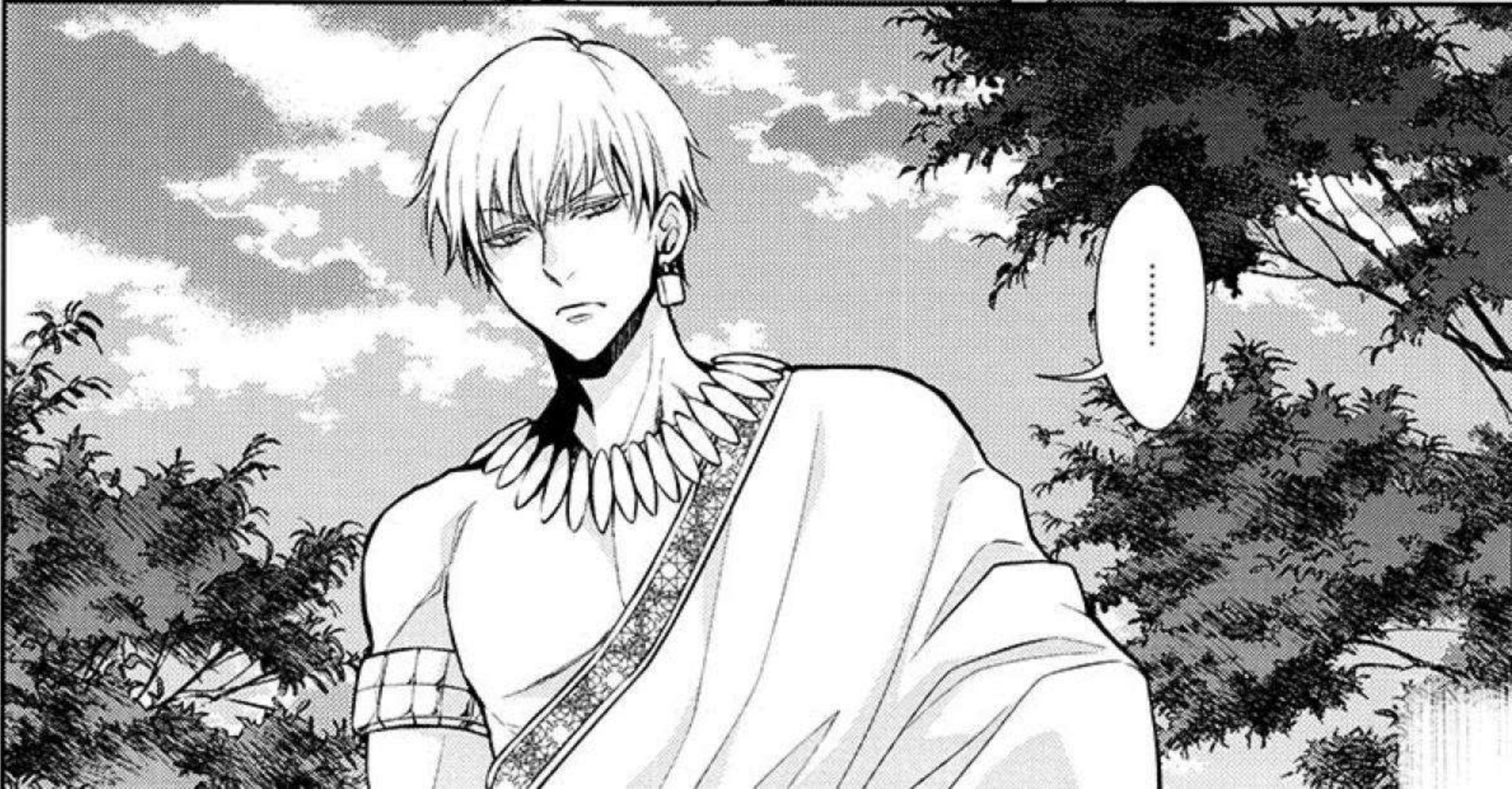
緑の美しい人——


それで貴様は
ここに残り
墓守を続けていたと
いうのか

奇特な事よ

どうした?
もっと文句とやらを
申してみよ

捨てられて悲しいと
あまたの女のように
可愛げのある台詞の一つも
吐き捨てるがいい






私は語った
王が旅立たれてから
ずっと考えていた事を

苦言を呈しながら
国が如何に滅んだか

長く王に使えた忠臣達すら
王の不在に戸惑い、嘆き
失望し、衝突し

迷った末に
国を去った事



自らの法を貫いてこそその
王だと公言するならば

その脆弱さを
問題視すべきだと

私はこの後に
訪れるであろう死を
予感しながら
王に訴えた



王は退屈そうだった

私の言葉は
届かない――

届かない

もうよい
あいたわ

二度言うなと
いったな？

だが……

さきほどから
似たような話
ばかりだぞ

泣きながら
訴える貴様は
見物であったな



貴様の涙
寝所でよがって
零れる以外は
初めてか

組み敷けばさらに
泣きわめいて
多少の可愛げも
出るやもしれん

拒否するか

おっ……
お止め下さい

ならば何故
まだ我を
王と呼ぶ？

王は王です……

ならば委ねよ

こ……
このような
場所……？

なにを戸惑う
どうせこの国には
他に誰もおらぬ



貴様と我
二人しかな

つあ…

……んっ

クニクニ

くっ

えっ



……あッ

ほう
相変わらず
反応のいい事よ

容易く
あふれて
来るではないか





う……っつ

もう
いやらしい音を
たて始めたぞ？

よほど
我が恋しかったと
みえる

グミッ

グミッ

グミッ

グミッ

我が念入りに
仕込んでやった体
独り寝はさぞ
辛かっただろう



そ……
そのような
こと……は



独り寂しく
我を思つて
自らを慰めたか？

それとも
他の男を
くわえこんだか？

(ハア)
(ハア)



ただひたすら
体のうずき
耐えたと言うか

トッ



我が欲しいか？

ひくついで
いるぞ？

はっ

ガッ

……あッ

ア
ム
ツ



なか
腔はどうだ？

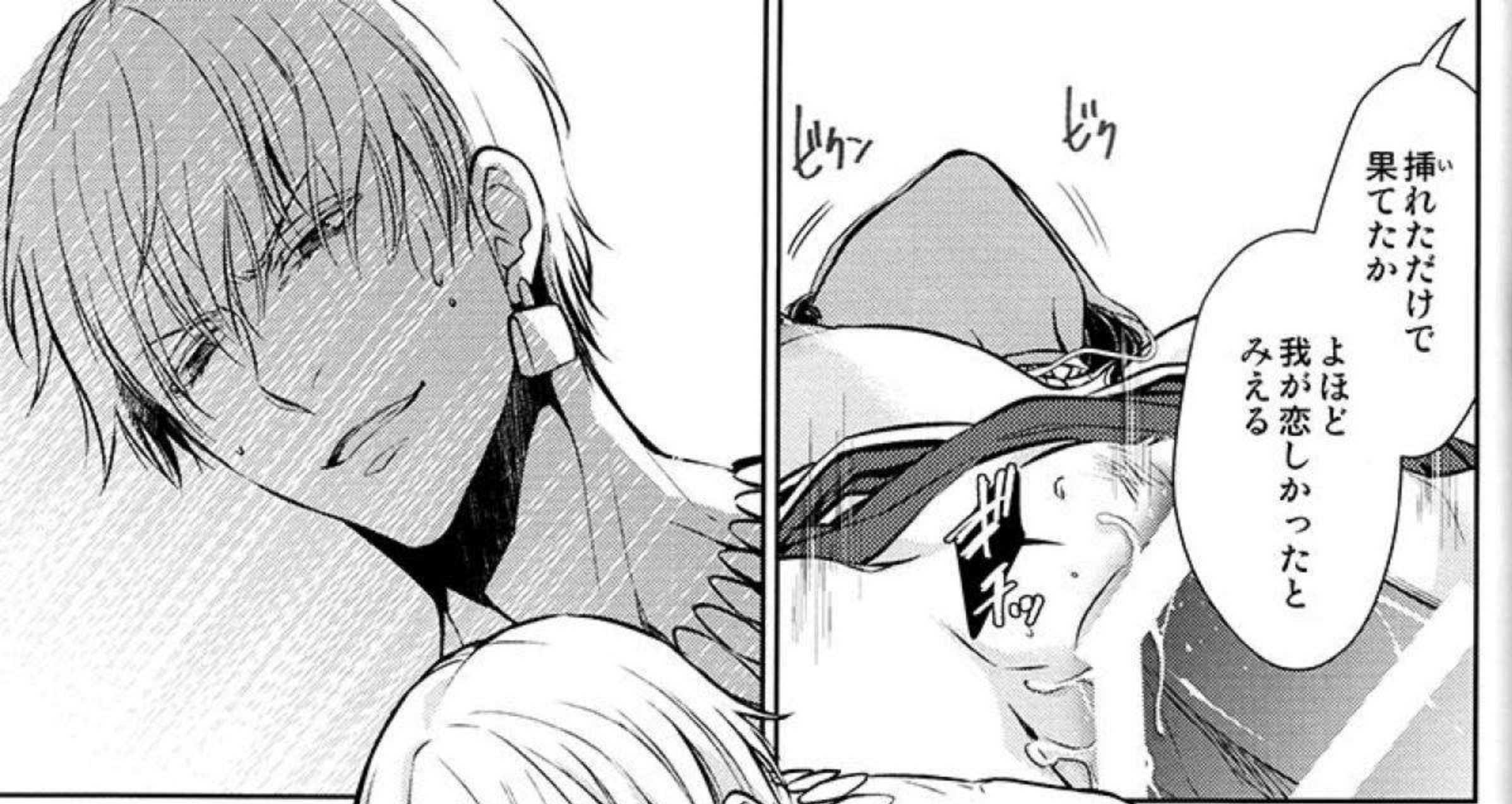
貴様は
変わらん

あッッ

ヒッヒッ

ヒッヒッ





挿れただけで
果てたか

よほど
我が恋しかったと
みえる



食いちぎらん
ばかりに
絡み付いて来る



どうやら
貴様の忠義
偽りでは
なかったようだな

我が不在の間
他の男に股を
開かなかったという言葉
まことのようにだ

我がどうして
こう結論付けたか
分からぬか

当然で……す
………?

貴様の体が
何よりの証し

女の体とは
不思議なモノよ

つがいの男の一物に
あわせてなか膺が変容
するのだ

今の貴様のよう
に
我に絡み付き
より強い快感を
与えるようにな

だがひとたび
別の男をくわえ込めば
当然膺の形は変わる



口先だけの
くだらぬ雑種



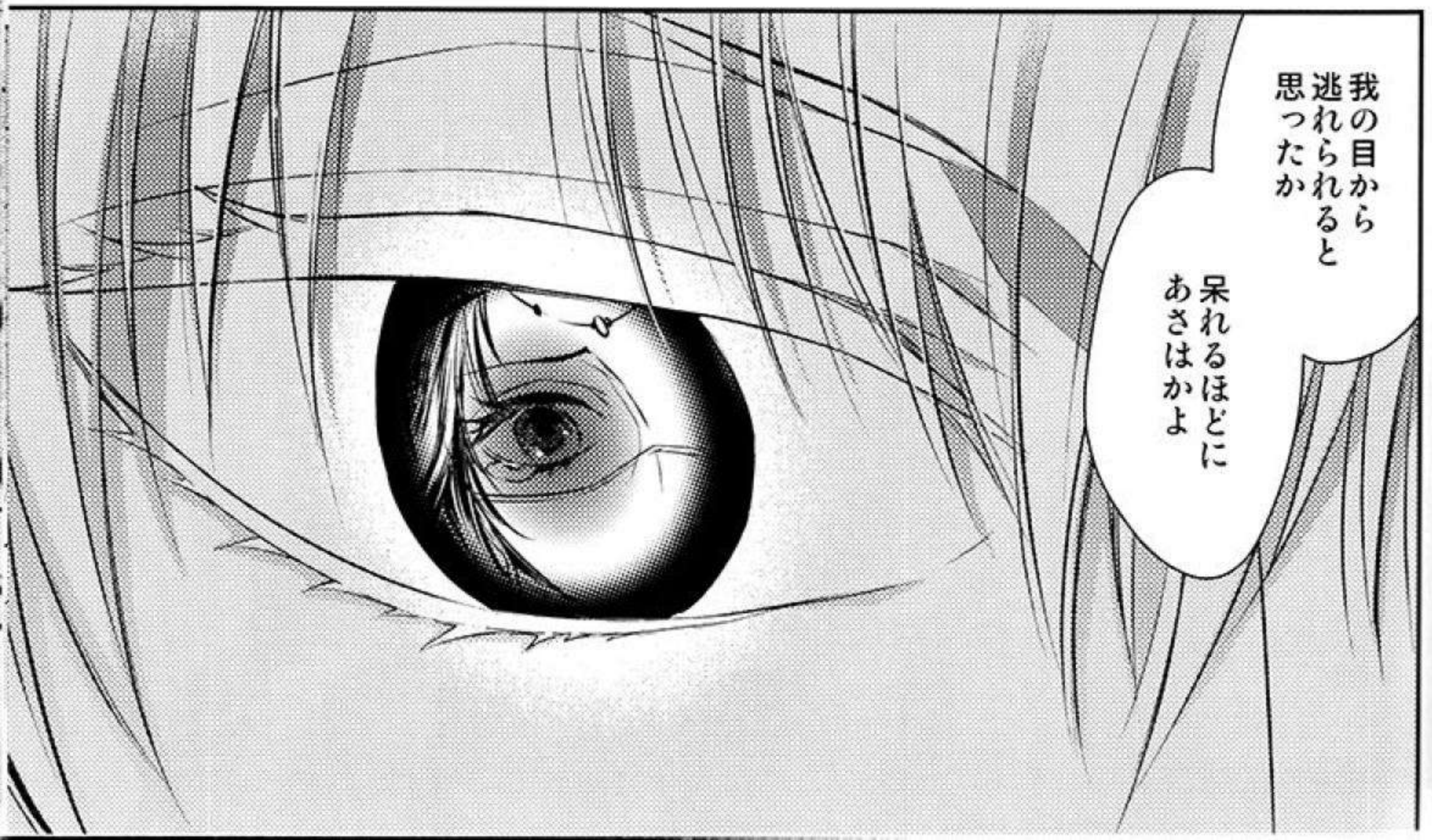
後宮の女共で
何度も試したからな
間違いない

そ……
そのような
ことが……!!!



我に奉仕する為の
後宮にあって

無垢な顔で
我に愛の言葉をささやき
その裏で別の男に
股を開き続けた女もいたな



我の目から
逃れられると
思ったか

呆れるほどに
あさはかよ

そう力を
入れるな

だが
その忠義に免じ
数々の不敬
特に許す

我をすぐさま
果てさせる気か
不敬だぞ

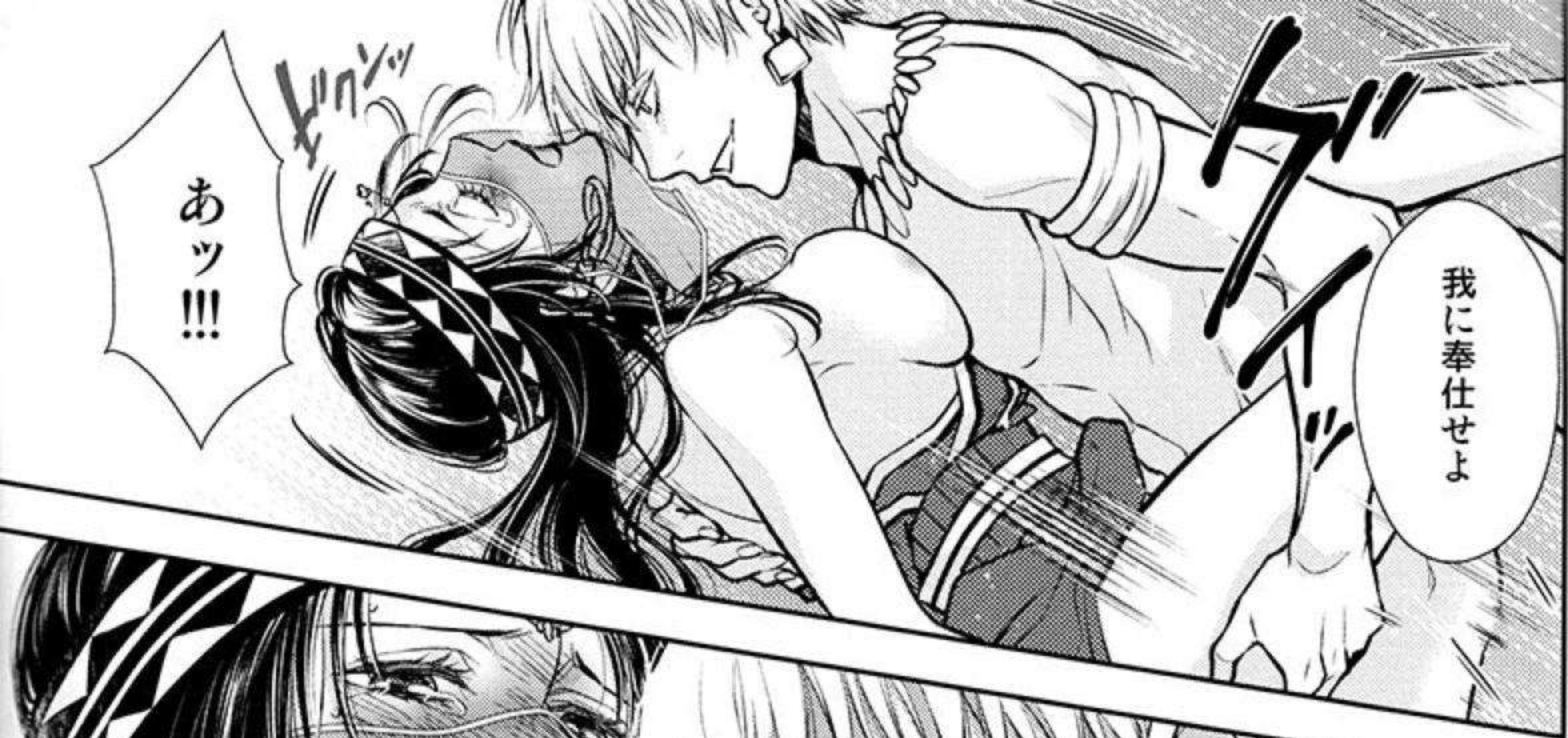
月日と体
命をかけた進言
私の心に留め置いて
やろう

シドウリ

……っ!!!

あゝ

ぶる



我に奉仕せよ

あッ!!!



しばらく振りの
女の体

獣のように
食りたい気分だ

思う存分
貴様を味わうと
しよう



あッッ

う……あッ!!!

あッ



さすがの我も
保たなんだわ

ふはは



はあ

おっ



ヒンツツ

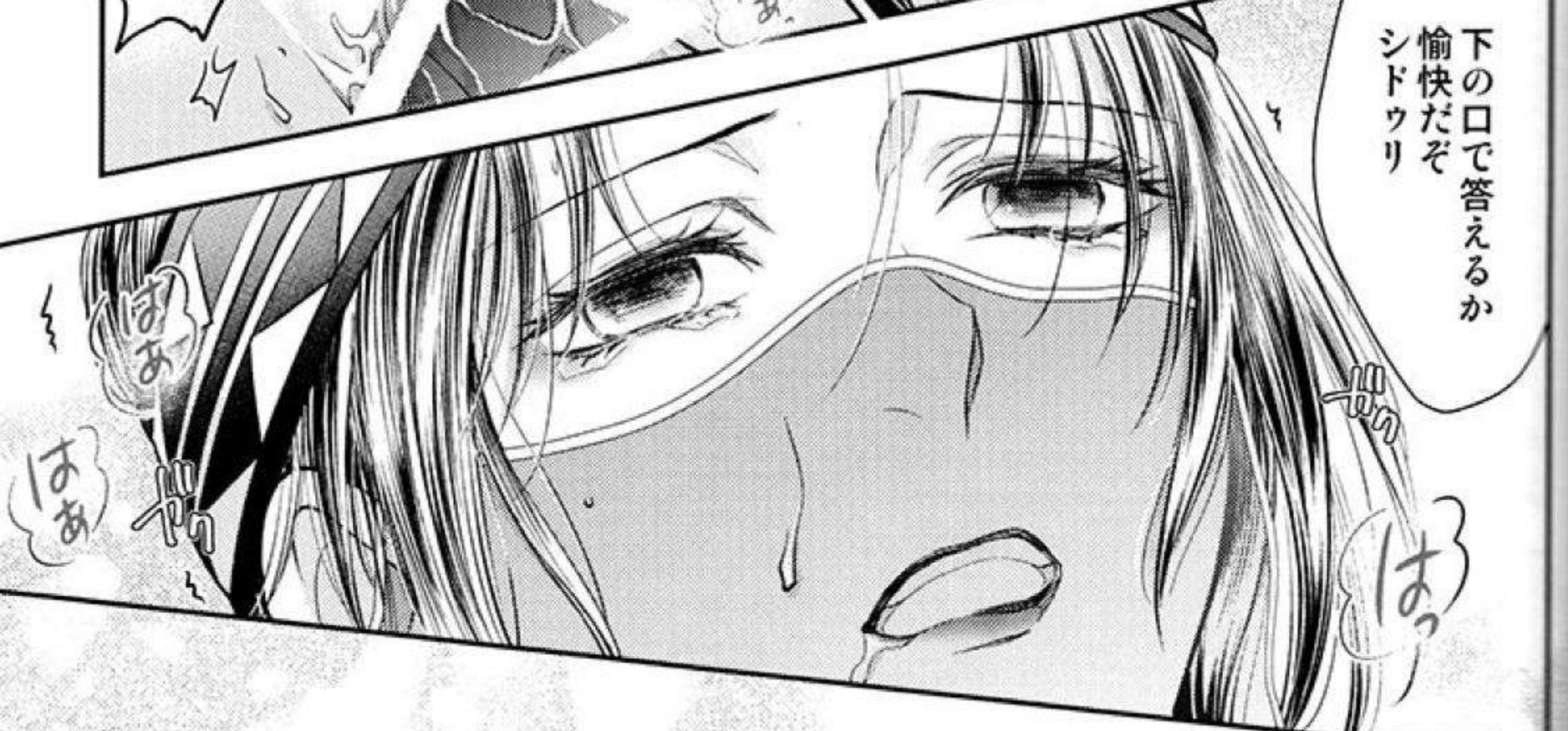
ヒンツツ

どうだ？
待ちに待った
我とのまぐわいは

はあ
声も出ぬか？
シドゥリ



下の口で答えるか
愉快だぞ
シドゥリ

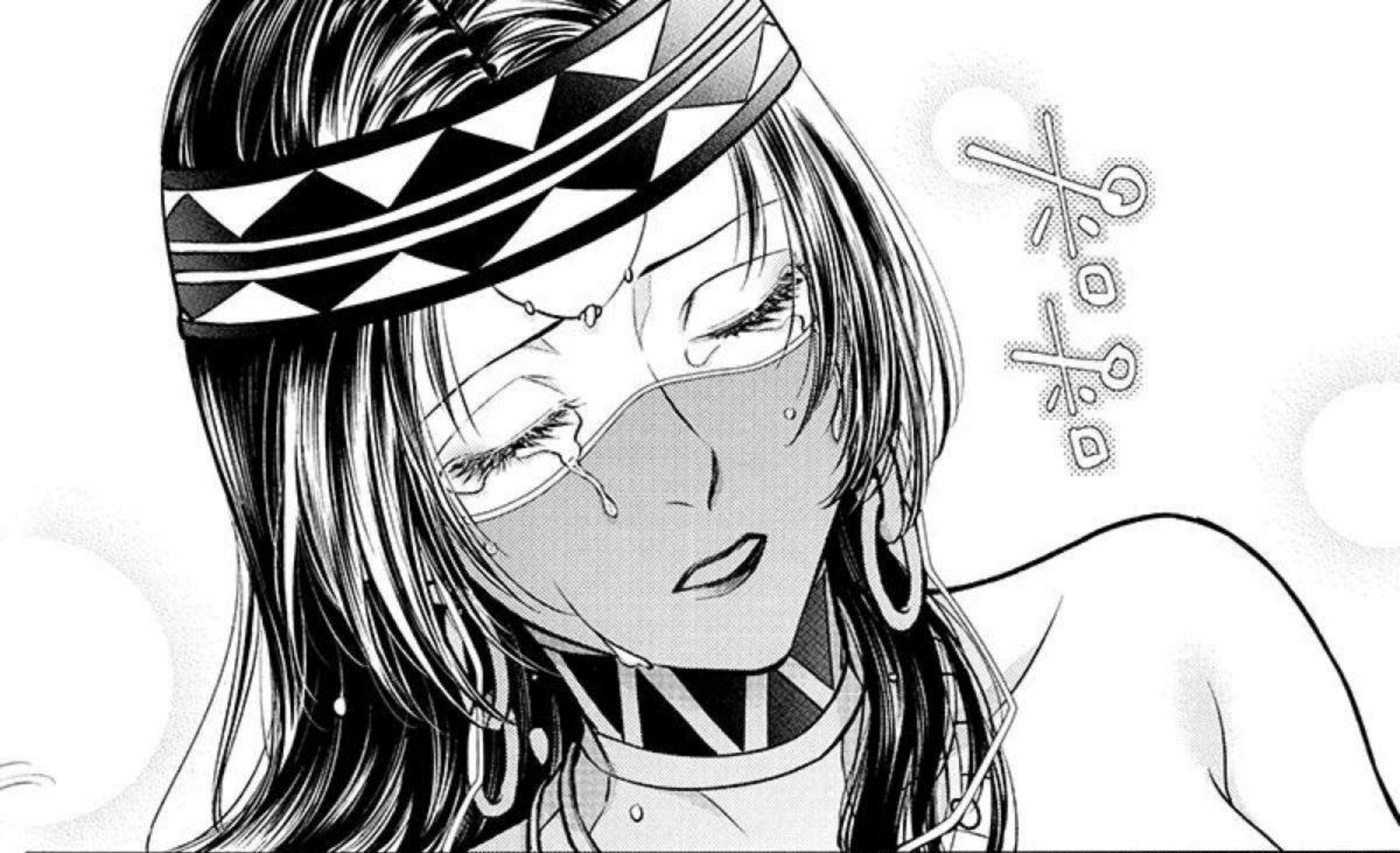


——王は
昔と全く
変わらない

国を出る前の

かの人が旅立つ前
生きていた頃の
王





……違います

嬉しくて



— ?



我が抱かれるのが
それほど嬉しいか
そうかそうか

ふはは、

いいえ
そうではなく

なに!?

なんだ
不服か!?

本当に
お戻りになられたの
ですね……

王は王に

失った悲しみを
のりこえて……

それが
嬉しくて——

お帰りなさいませ
——王





ならば……

グッ
グッ

——ふん
そうか



グッ
グッ

遠慮はいらん

あつっ……!!!

グッ
グッ
グッ



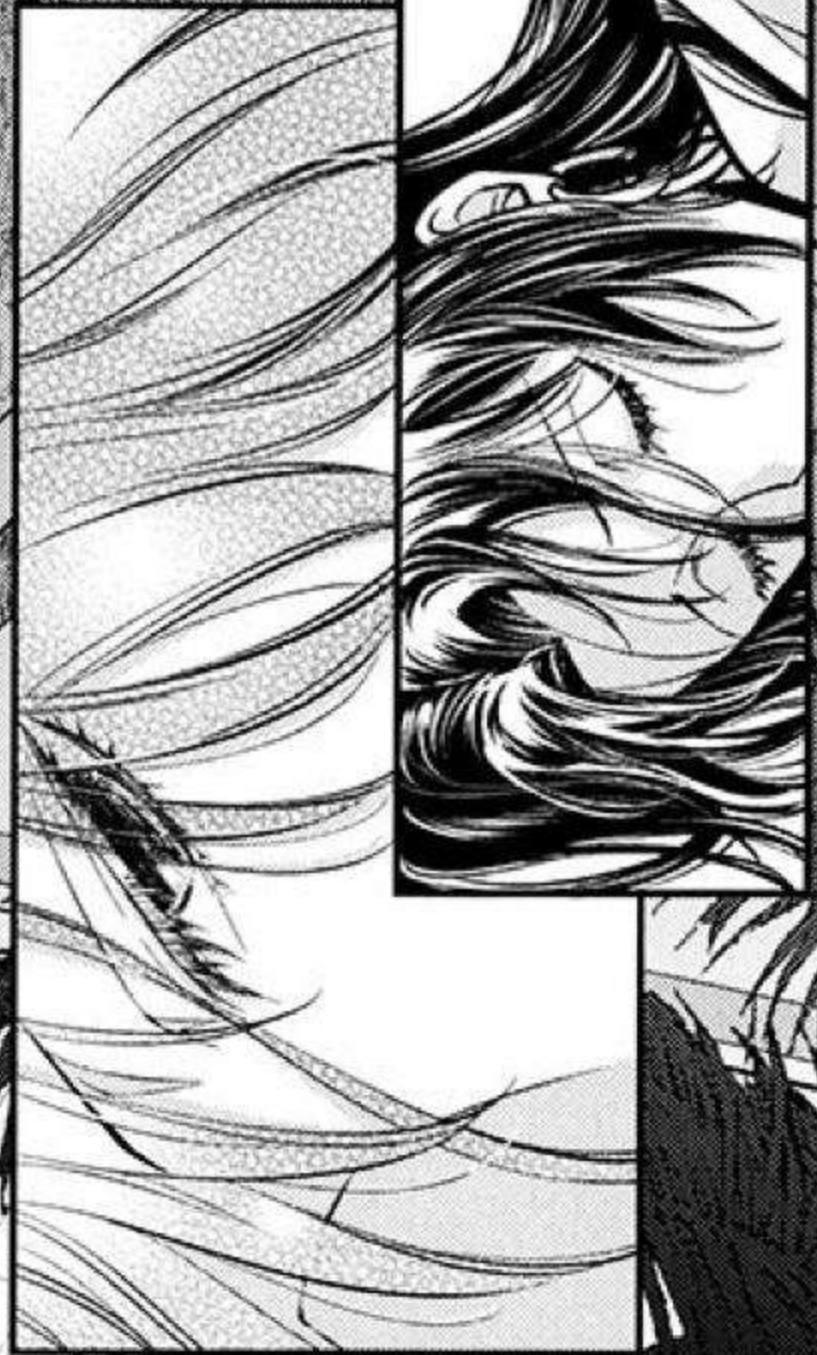
——







王?



まさか
また……

何処かへ
旅立たれたのでは——



明かり一つ
見えぬ

見事に滅びたな
この国は

アッ


……

ホッ……







だがまた興せば
いいだけのこと




次はさらに雄大で
美しい宝のような国を



ああ、貴様はよく
仕事の合間に
空中庭園で
心を休めていたな



次はもっと
広い庭園に
してやろう



なに
たいした
手間ではない

ありがたく
拝受せよ



いいえ

また嬉し泣きをするか？



もうそんな暇いとまは
ございません
でしょうか？



貴様は本当に
可愛げがない

ふふふ



王はきっと
素晴らしい国を都を
お造りになれる

私は
その国を心から
愛するだろう

その血の三分の一は
神と同じ物——

——王は人とは違う

傲慢で身勝手
けれどその力と知恵は
比類なく

まさに
王の中の王

王は人を
愛さない

かの人以外は
愛さない



父は母だけを愛し
母も父だけを愛し
私を慈しんでくれた

幼い頃思い描いた
家庭を築く事は
かなわない

私は王の側に
いることを選んだ

おそろく
両親も悟って
いたのだろう


寵愛など儚く
穏やかな家庭など
望めない




心にも無い事
ふふ

私も女としてなら
嘘の一つも
つきましよう






王、愛さぬ者を
待つ女など
おりませんよ




言葉にしなれば
態度で示さなければ

神の力を持った
王にすら私の心は
見通せない

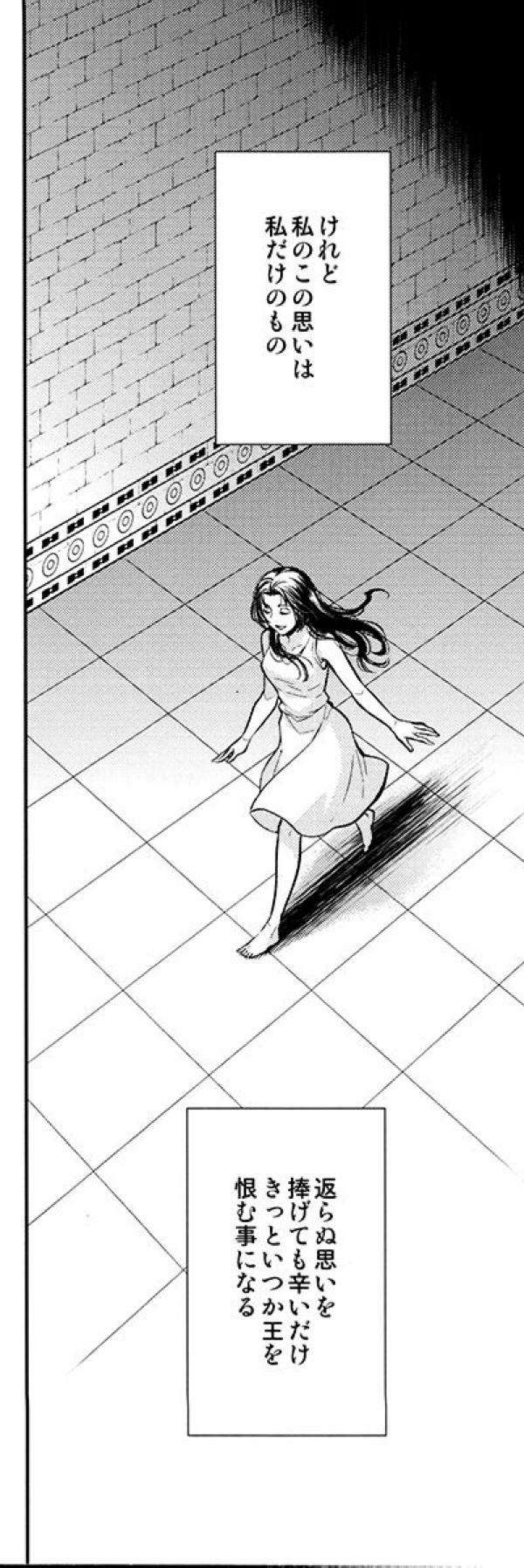


私は自ら
あなたに触れたり
しない――

その姿が
どんなに愛おしくても
その髪が
どんなに美しくても



私が持つ
他のもの全ては
あなたに捧げましょう



けれど
私のこの思いは
私だけのもの

返らぬ思いを
捧げても辛いだけ
きつといつか王を
恨む事になる

私の望みは
この身が遠い
冥界の門をくぐる
その日まで

王たるあなたに
お仕えすること

ただそれだけと
心に誓ったの
ですから――

今回のギルシドゥ本は、過去話です
初めてのシドゥリさん視点メインの話、今回はいつも以上に捏造が多いです すみません
「シドゥリさんが一人ウルクでギルの帰りを待っていた」というエピソードを読んでから萌え滾り、あれこれ妄想していたのですが いざ一本の話としてまとめようとしたら難しくて死にそうでした……いやまだこんなもんじゃない まだまだいろいろあったに違いない……公式何かくれ！！下さい……たのむ……たのむ！！私ごときが考えたモノより数段素晴らしいであろうエピソードを欠片でもぜひに……と描いた後もジタバタしつつも、とりあえず滾る思いを一応は形にして少しだけ落ち着きましたw
昔からギルガメッシュは大好きでしたが、大切なのはエルキだけ 愉悦を求め一人孤高 寂しい人だとは思わないし、本人もそう感じてはいないだろうけど、エルキを失ってからずっと一人で完結、完成している人だと思っていたのですが、まさか帰りを一人待っていてくれる、あのギルが信頼している臣下がいたとは……しかも女性！！ 賢い優しい常識人！！付き合いの長さを感じさせる夫婦漫才かというやり取り、長年なにごとシドゥリさん呼びつけて用事を言いつけていたんだなと思わせる賢王……もうなんていうか七章やってからギルシドゥに夢中です。シドゥリさん賢いし優しいし可愛い。天然っぽい所がまたたまらない……私の脳内で勝手なシドゥリさん像がどんどん出来上がっていています。そして描く話に捏造が多くなるというスパイラル……好き勝手描いてしまっ、申し訳ない気分になるのですが、愛故の暴走なのでどうかご容赦下さい。

今回ギルの衣装と髪型に凄く迷いました
CCCの長髪ギルで描いてみたいなーとふわっと思ったのですが、誰だお前状態になるので諦めましたw
衣装は……CCCの腰布だけでお帰りになれるギルは……(笑)と脳内が叫ぶので、一般的なバビロニアの衣装(デカイ布巻いただけ)にしました。すぐ脱げるすばらしい。ああ、なるほどF/Zでマントを華麗に巻いて裸体を隠していたのは慣れていたせいかと、初めて資料見た時に思いましたw
あと、冥界云々については、叙事詩を参考にしています。古代メソポタミアでは、人は死ぬと冥界に赴き死霊として生き続けると信じられていたらしいです。弔う縁者、子孫が多いほど冥界での地位が高く、美味しいモノを食べられる。野ざらして死んだ者、正しい手順で弔われなかった、墓を世話する者がいない場合は隔離されたり残飯あさって暮らしたりする惨状……だったかと。FGOのそれとはちょっと違うかもしれませんが、地域によって違う死生観面白いなと思ったので一応いろいろ読んだのですが、何か間違っていたらすみません(汗)

次はできればカルデア一行がウルクに来て以降の話を描きたいな……と思っています。
まだまだ暴走する愛を本という形にしたいです！！
長くなりそうなのでいつになるかわかりませんが、もしよろしければ手に取って頂けると嬉しいです！
ここまで読んで頂いてありがとうございました！
2017.12 マミヤ

Gilgamesh × Siduri


Fate/Grand Order unofficial fanbook no.06
MAMIYA [RIX] PRESENTS 2017.12.29
WEB: <http://rix.vv.cx>
MAIL: m@rix.vv.cx PIXIV ID = 464880
print: SUNGROUP CO.,LTD.



18歳未満の閲覧厳禁
同人誌は18歳未満、同人誌に理解の無い方の手に渡ぬよう
所有者が所持、廃棄に責任を負って下さい

禁止
ネットオークション・フリマアプリへの出品
WEB等へのアップロード無断転載、複製複写、転用、
購入者個人用途以外のスキャン・デジタル化等

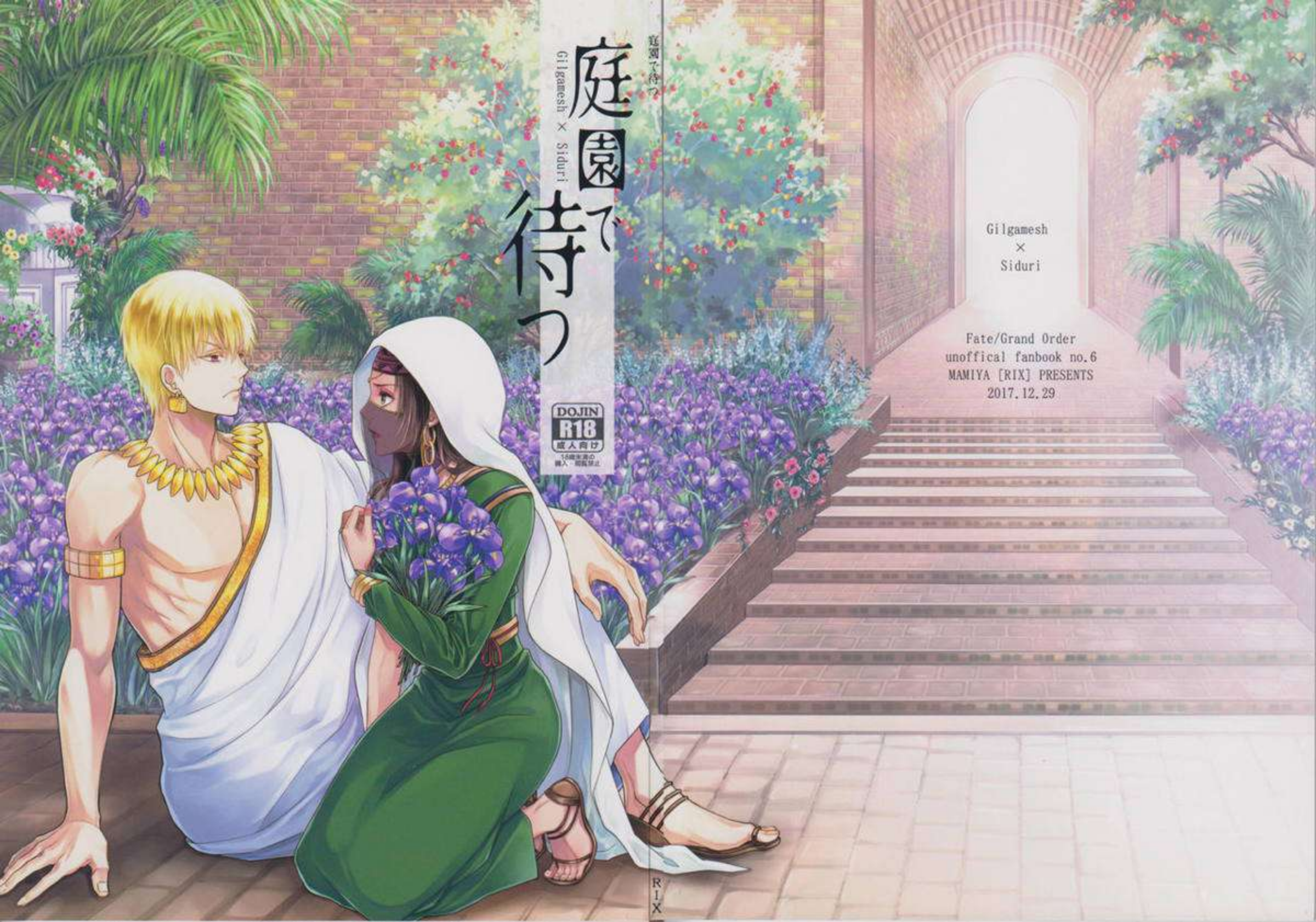
※本書の無断違法公開を確認した際は
検索サイトへのDMCA侵害申請・
サーバー会社・広告配信・スポンサーサイト・
アフィリエイト・ドメイン所得サイト等への通報、
及び悪質な場合は損害賠償の請求等、相応の対応を行います。



Gilgamesh
×
Siduri

Fate/Grand Order
unofficial fanbook no.6
MAMIYA [RIX] PRESENTS
2017.12.29





庭園で待つ

庭園

Gilgamesh × Siduri

で待つ

DOJIN
R18
成人向け
15歳未満の
購入・閲覧禁止

Gilgamesh
×
Siduri

Fate/Grand Order
unofficial fanbook no.6
MAMIYA [RIX] PRESENTS
2017. 12. 29

RIX